

3 地域連携・人材交流

都道府県名	事業名	研修名または取組名
京都府	医療従事者確保推進事業 (医療従事者資質向上等事業)	看護職連携キャリア支援事業

取組のポイント

○系列や病院機能を超えた人材交流を通じ、地域・施設間連携に強い看護職を育成する。

京都府プロフィール

人口	2,610,000 人 ¹⁾	面積	4,612.2km ² ²⁾
就業看護職員数	32,286 (28,633.9) 人 [※]	病院数	174 ⁴⁾
就業看護師数	24,637 (22,181.8) 人 ³⁾	一般診療所数	2,459 ⁴⁾
就業准看護師数	5,659 (4,644.3) 人 ³⁾	助産所数	156 ⁵⁾
就業保健師数	1,087 (1,024.6) 人 ³⁾	介護老人保健施設数	70 ⁶⁾
就業助産師数	903 (783.2) 人 ³⁾	訪問看護ステーション数	184 ⁶⁾

注：就業看護職員数・就業看護師数・就業准看護師数・就業保健師数・就業助産師数の数値は、実人数であり、()

内は常勤換算

※ 就業看護職員数は、就業看護師数・就業准看護師数・就業保健師数・就業助産師数の合計から算出

背景・経緯

近年、高度急性期から在宅に至る医療の機能分化・強化ならびに地域包括ケアシステムを中心とする在宅医療・介護が推進されている。医療の機能分化・強化は、質の高い医療を効率よく提供する上で必要不可欠な仕組みといえるが、医療の機能によって看護師に求められる専門性が異なるため、例えば、高度急性期を担当する看護師は在宅の現状がわからず、逆に在宅からスタートする看護師は急性期のことがわからないという状況が起こり得る。

こうしたギャップを埋め、継続医療・継続看護を推進するための取り組みとして、京都府では京都大学医学部附属病院に看護職キャリアパス支援センターを設置し、平成 27 年 4 月から医療機能の異なる施設間での「連携に強い看護師」を養成するための「看護職連携キャリア支援事業」を開始した。

1) 総務省統計局：人口推計（平成 26 年 10 月 1 日時点）

2) 国土交通省国土地理院：平成 26 年全国都道府県市区町村別面積調（平成 26 年 10 月 1 日時点）

3) 厚生労働省：平成 26 年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況（平成 26 年末時点）

4) 厚生労働省：平成 26 年医療施設調査（平成 26 年 10 月 1 日時点）

5) 厚生労働省：平成 26 年衛生行政報告例（平成 26 年度末時点）

6) 厚生労働省：平成 26 年介護サービス施設・事業所調査（平成 26 年 10 月 1 日時点）

取組の概要	
研修名または取組名	看護職連携キャリア支援事業
＜目的＞	急性期から回復期、在宅における幅広い看護の経験と知識を有した「施設間の連携」に強い人材を育成する。
＜内容＞	京都大学医学部附属病院に「看護職キャリアパス支援センター」を設置し、同院が人材交流支援拠点となり、他施設及び京都府北中部の医療・看護・介護施設との看護師等相互人材交流システムを確立する。
＜対象者＞	京都府内の医療機関
＜補助対象＞	京都大学医学部附属病院
＜期間＞	通年
＜予算＞	4,901.3 万円/年

取組の具体的な内容

人事交流による施設間の連携に強い人材

育成

この事業の目的は、急性期医療を担う病院と回復期リハビリテーションや長期療養、在宅医療を担う施設、訪問看護ステーション等との間で、“在籍出向による”相互人事交流を推進し、自施設では経験できない医療機能の中での看護を深く体験的に学び、自施設の看護の振り返りを通して看護の質を向上させるとともに、継続看護を確実に遂行できる“連携力”を鍛えることにあり、事業の内容として、主に3つの交流プログラムについて支援を行っている。1つ目は京都大学医学部附属病院と対象機関との相互人事交流プログラム、2つ目は京都大学病院から他の医療機関等への派遣プログラム、3つ目は他の医療機関等から京都大学医学部附属病院への派遣プログラムである。（図1）（図2）（図3）

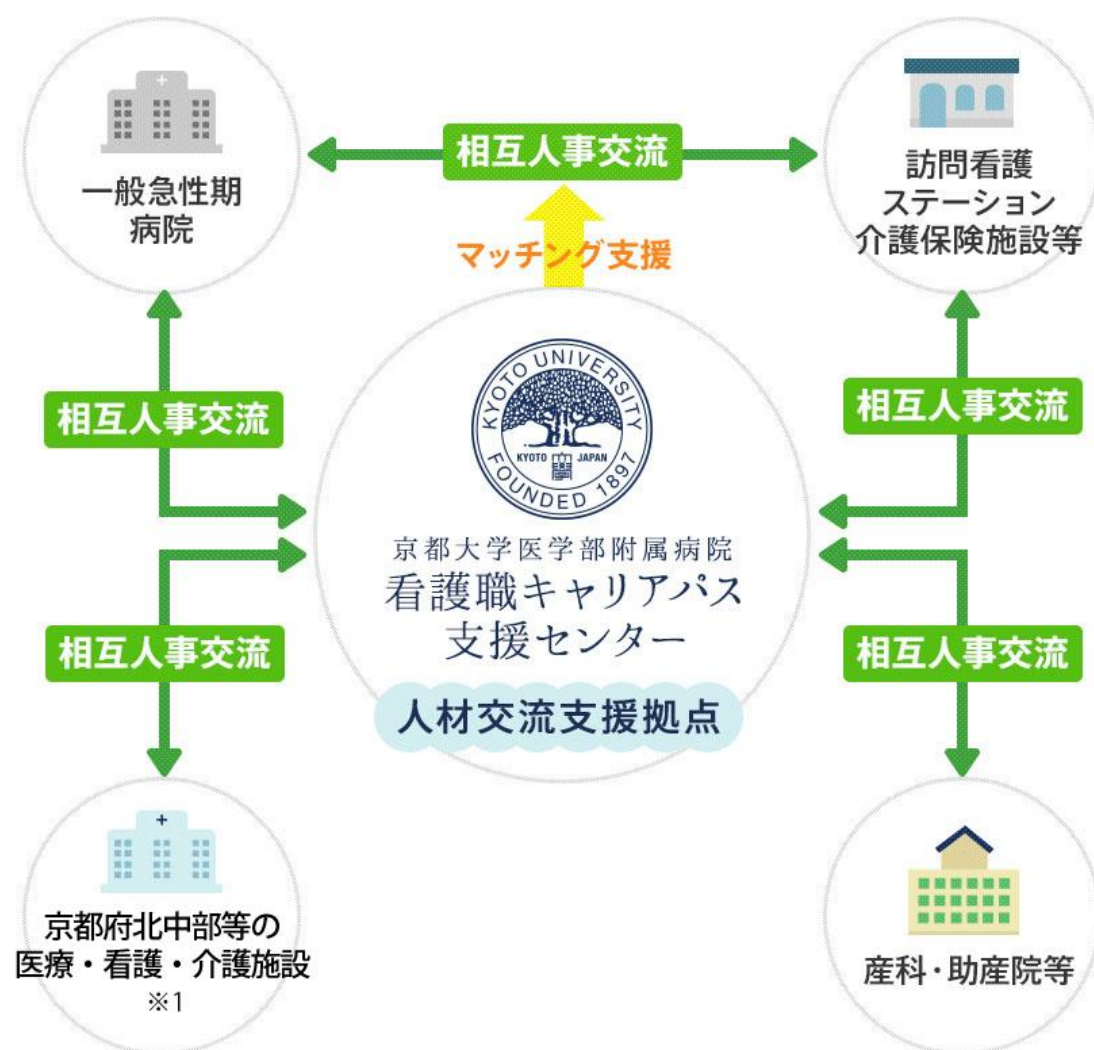
人材育成の計画および具体的な支援方法

京都大学医学部附属病院では、平成27年度は4月より京都府内のホスピス、訪問看護ステーションを含む4つの医療機関に、京都大学医学部附属病院の看護職5名（看護師2名、助産師3名）の長期派遣を既に開始している。また、7月には事業の運営拠点となる「看護職キャリアパス支援センター」を京都大学医学部附属病院内に設置し、専任の教員1名、事務職員1名によって、派遣先施設ならびにプログラム参加者らへの実質的な支援を開始した。具体的な支援内容は、施設間の協定書の作成、派遣先施設での具体的な業務内容や勤務時間等の調整、プログラム参加者らの看護実践能力の評価ならびに定期的な面談を通してのメンタルサポート等、多岐に渡る。平成28年度には、派遣先施設のうち可能な施設から京都大学医学部附属病院への逆派遣をスタートさせ、在籍のまま相互に人材を交流しあう、いわゆる交換留学方式での“相互人事交流”を実現させる予定で、現在、準

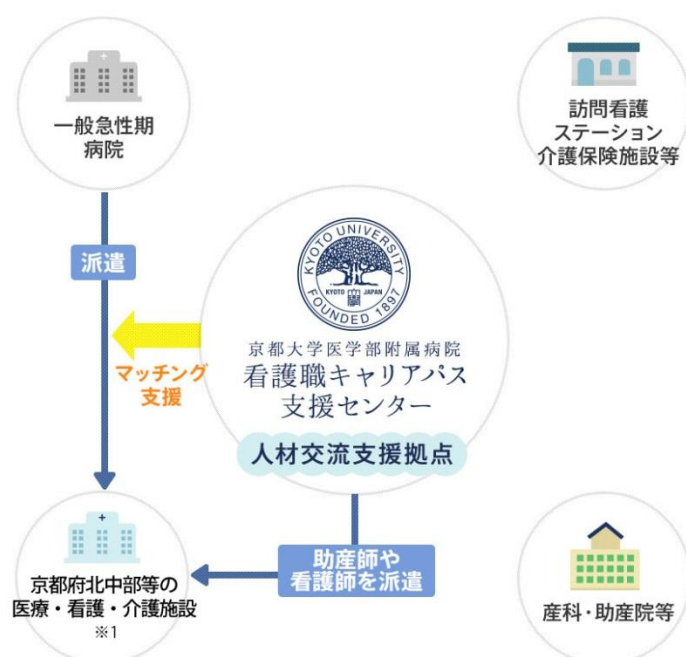
備・調整を進めている。最終年度となる平成 29 年度には、京都大学医学部附属病院以外の施設間同士の相互人事交流を支援する仕組み、具体的には、各施設からの人事交流ニーズの把握と施設間のマッチング、プ

ログラム参加者への教育ならびに実践の評価、派遣先及び派遣元施設の看護管理者ならびに参加者から寄せられる各種相談への対応といった、一連の支援システムを完成させることをゴールとしている。

【図 1】 京都大学医学部附属病院と対象機関との相互人事交流プログラム



【図2】京都大学医学部附属病院から他の医療機関等への派遣プログラム



【図3】他の医療機関等から京都大学医学部附属病院への派遣プログラム



※本事例は、「京都大学医学部附属病院 看護職キャリアパス支援センター」のウェブサイトを用いて作成した。

URL : <http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~nrcareer/>